学校番号	1004

平成３１年度　芸術科

教科	書道	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	書道Ⅱ（東京書籍）						
副教材等	改訂基本　ペン習字（教育図書）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道Ⅰで学んだ内容を応用、発展させ、自ら学び、自ら考える力をつけよう。
・鑑賞力を高めて感性を磨き、思考・判断し表現する能力を見につけよう。
・篆書、隷書、草書を学び書表現の幅を広げよう。

2　学習の到達目標

書の伝統と文化についての理解を深めるため、書道Ⅰで学習した内容を発展させた様々な創作活動を通じ、生涯書道を愛好する心情を育成する。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい,書の伝統と文化に関心をもって,主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書表現の諸要素を感受し,感性を働かせながら,自らの意図に基づいて構想し,表現を工夫している。	創造的な書表現をするために，書の効果的な表現の技能を身に付け表している	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し，その価値を考え，書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	漢字の書(楷書)	楷書 **臨書・鑑賞** 張猛龍碑 薦季直表　鍾繇 爨宝子碑 元彦墓誌銘 賢愚経(大聖武)伝聖武天皇	○		○		a: 書道Ⅰの楷書の学習を踏まえ、より個性的な書表現を理解し、臨書ができている。 b:人物や時代背景について理解できている。 c：楷書の古典の美について理解し，用筆，運筆，字形の取り方などに注意している。 d:字形、筆順が正しくできているか。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
	漢字の書(行書・草書)	行書 **臨書・鑑賞** 集王聖教序　王羲之 李柏尺牘稿 温泉銘　太宗 灌頂記　空海 苕渓詩巻　米芾 草書 臨書・鑑賞 書譜　孫過庭 十七帖　王羲之 （夏季休暇の課題として硬筆を課する）	○	○	○		a:行書、草書に対する興味・関心を深め歴史的位置付けを理解できている。 b:さまざまな行書、草書の書風を鑑賞し、行書、草書の表現の多様性を理解できている。 c:字形の構成や全体構成の要素を理解し、個性豊かで、創造的な表現につなげている。 d:日本と中国の行書、草書に興味、関心を持ち歴史的な流れを理解している。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
二学	篆書と篆刻	篆書 **臨書・鑑賞・創作** 石鼓文 甲骨文 泰山刻石 篆刻 鈴印の篆刻	○	○	○		a:篆書に興味を持ち歴史的位置付けを理解している。 b:篆書の用筆・運筆、結構の特徴を理解し、表現できている。 c:篆書の技法を生かせて、主体的に作品を制作することができる。 d:篆書作品を鑑賞し、表現の多様性を理解し、書美に対する感性と愛好心が身についている。 e:書道Ⅰで学習した篆刻の技法を用いて、鈴印を制作できているか。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

期	刻字	刻字 書と刻字 刻字の用具･用材 刻字作品の制作手順		○		○	a:刻字が書の表現であることを理解し、草稿が丁寧にできている。 b:用具の使い方が正しくできている。 c：陽刻と陰刻の表現の違いによる理解ができている。 d：いろいろな作品を鑑賞し、刻字の表現の多様性を理解し、個性を生かした作品になっている。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
三 学 期	仮名	**臨書・鑑賞** 粘葉本和漢 朗詠集 関戸本 古今和歌集 十五番歌合 本願寺本三十六人家集（石山切）（伊勢集） 継色紙 創作作品制作	○		○		a:書道Ⅰを踏まえて、日本独自の仮名の美を鑑賞し、日本の伝統と文化を理解している。 b:書道Ⅰを踏まえて、より個性的で多様な仮名の表現を鑑賞し、理解できている。 c:仮名の古典の美について理解し、用筆、運筆、字形の取り方に注意し、臨書できている。 d:古典で学んだ特徴、技法をいかして、主体的に創作に取り組んでいる。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
	漢字仮名交じり書	名筆･古典に学ぶ漢字と仮名の調和 仮名に学ぶ漢字と仮名の調和 隷書に学ぶ漢字と仮名の調和 創作作品制作		○		○	a:漢字仮名交じりで書かれた名筆・古典を鑑賞し、漢字と仮名の調和について理解できている。 b:書道Ⅰで未習の仮名の古典の特徴を学習し、漢字と調和させる。 c：書体、書風の違いによる表現の違いが理解できている。 d：さまざまな作品を鑑賞し、表現の多様性を理解し、自己の作品に生かせている。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。